

# カテゴリー プラグイン

カテゴリーを使用して分析を行います。分析者は、対応するカテゴリーにより、プロセスのアクティビティにマークをつけることができます。また、カテゴリー詳細を使用してレポートを生成できます。さらに分析の用途のほか、プロセス階層の検索、カテゴリーにフォーマット オプションが設定されている場合はダイアグラムの個別表示などに使用できます。

## カテゴリーとは

カテゴリーは、BPMN のオブジェクト ファイル、フォルダ、またはプロジェクトなどのモデル オブジェクトに設定できるフラグです。カテゴリーは、複数の追加属性を持つ点で単純なフラグとは異なります。

カテゴリーは「カテゴリー セット」内で管理され、プロセス モデル ファイルとは別のファイルに格納されます。各カテゴリー ファイルには複数のカテゴリー セットを保存できます。これにより、分析者はクライアントとカテゴリー セットを簡単に共有でき、分析者はチームで作業できるようになります。カテゴリー ファイルはプロジェクト内に保存され、CVS 管理プロジェクト リポジトリとともに使用できます。

Avantage には、あらかじめ定義されたカテゴリーの基本セットが用意されています。これは、KAISHA-Tec's ActiveModeler 2 製品との互換性があります。

適用対象オブジェクトの目的を変更するほか、カテゴリーはオブジェクトの概観も変更できます。たとえば、オブジェクトの背景の色を変えたり、オブジェクトのラベルを変更できます。

カテゴリーには複数のタイプがあり、各タイプは共通の属性セットと異なる振る舞いを持ちます。分析には多種多様な方法があるので、カテゴリーは Avantage 内部にハードコードされていません。代わりに、分析者は、基本のカテゴリー セットに加えて、独自のセットを定義できます。

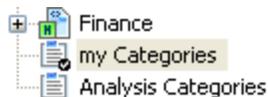
オブジェクトは、異なるカテゴリー セットや同一セットの複数カテゴリーによってフラグを設定できます。

多くのユーザーは、カテゴリーの設計や変更を行う必要がありません。他のユーザーが設計してプロジェクトに保存した定義済みのカテゴリーを使用することになるからです。カテゴリーの設計や変更が必要な場合は、このマニュアルの「カテゴリー エディタ」を参照してください。カテゴリー エディタは、カテゴリー プラグインのコンポーネントです。

## カテゴリの操作

カテゴリはファイルなので、名前変更、削除、共有、コピー、ワークスペース内の他のプロジェクトへの貼り付けなどが可能です。カテゴリ セット ファイルは、下図のようにナビゲータに表示されます。

**Figure 1.** カテゴリ セットは、プロジェクト ワークスペースにファイルとして表示される



注：プロジェクト エンティティにカテゴリを割り当てる前に、デフォルト カテゴリ ファイルが必要です。

1 プロジェクトに複数のカテゴリを作成でき、そのうちの 1 つのみがデフォルトになります。カテゴリは、プロジェクトのほとんどすべてのエンティティ（ファイル、フォルダ、ダイアグラム、タスクなど）に割り当て可能ですが、一部のエンティティではデフォルト カテゴリ ファイルのカテゴリしか割り当てられません。

自分で作成したカテゴリ ファイルをデフォルトにするには、該当のカテゴリ ファイルにデフォルト フラグを設定する必要があります。設定するには、[ワークスペース ナビゲータ] でファイルを右クリックし、コンテキスト メニューから [デフォルトのカテゴリ ファイルとして設定] を選択します。

デフォルト カテゴリ セットにはチェック マークが表示されます。

**Figure 2.** デフォルト カテゴリ セットのアイコン

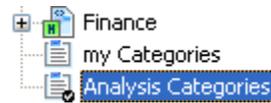


## デフォルト カテゴリ セットを変更するには

任意のカテゴリ ファイルをデフォルト ファイルに設定するには、ワークスペース内で該当ファイルを右クリックし、[デフォルトのカテゴリ ファイルとして設定] を選択します。



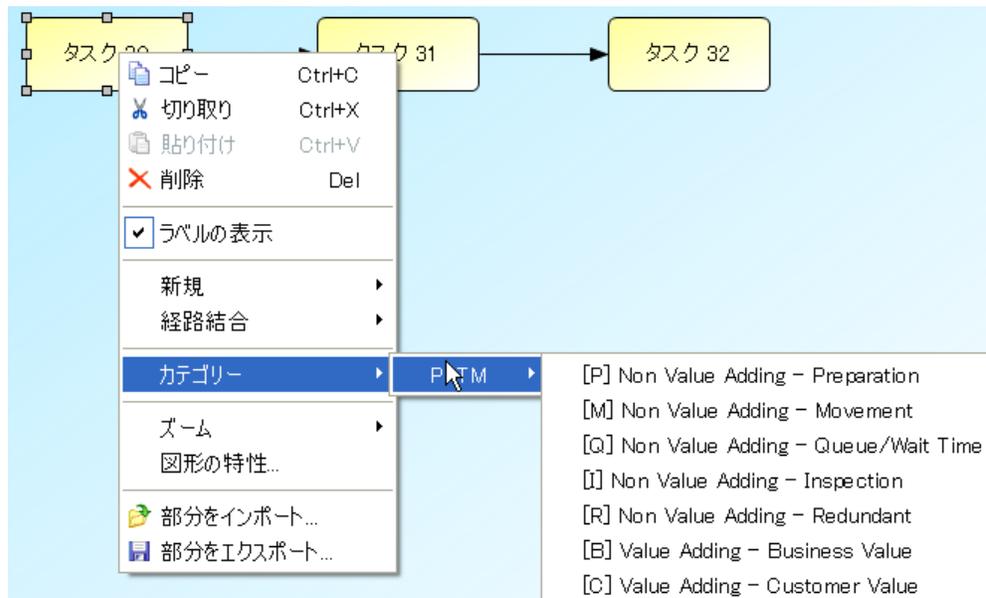
Figure 3. 選択したファイルにデフォルトを示すチェック マークが表示される



## BPMN プロセス オブジェクトへのカテゴリ適用

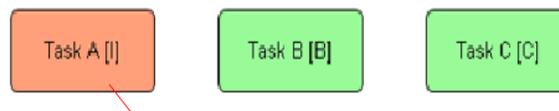
[ワークスペース ナビゲータ] または [ダイアグラム エディタ ウィンドウ] でプロセス オブジェクト カテゴリを指定できます。カテゴリを適用するオブジェクトを右クリックして、[カテゴリ] > [カテゴリ セット名] > [カテゴリ名] メニューを選択します。

Figure 4. ダイアグラムでオブジェクトのカテゴリを選択する



カテゴリを選択すると、そのカテゴリが図形に適用され、図形はカテゴリ情報によって「装飾」されます。

Figure 5. カテゴリの装飾



オブジェクトが表示される際、カテゴリの Color および Suffix 属性が使用される

## カテゴリ エディタ

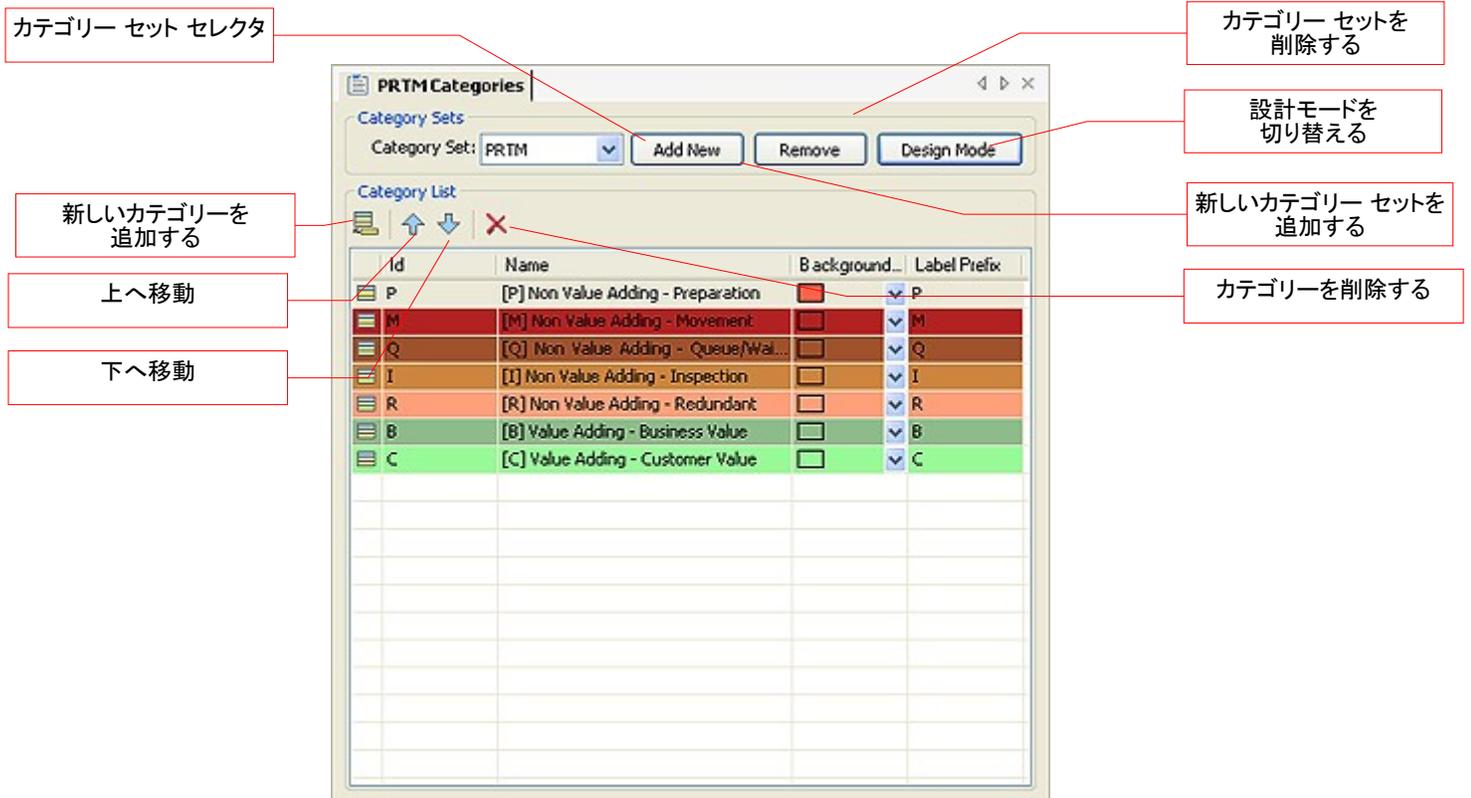
カテゴリ セット ファイルを編集するには、[ワークスペース ナビゲータ] で該当セットをダブルクリックします。カテゴリ リスト モードでカテゴリ エディタが開き、ファイルの先頭のカテゴリ セットが表示されます。

[ワークスペース ナビゲータ] のプロジェクトを右クリックして [新規] > [カテゴリ ファイル] を選択しても、エディタが開きます。

カテゴリ エディタには、「カテゴリ リスト モード」と「デザイン モード」の 2 つのモードがあります。[デザイン モード] ボタンで 2 つのモードを切り替えられます。

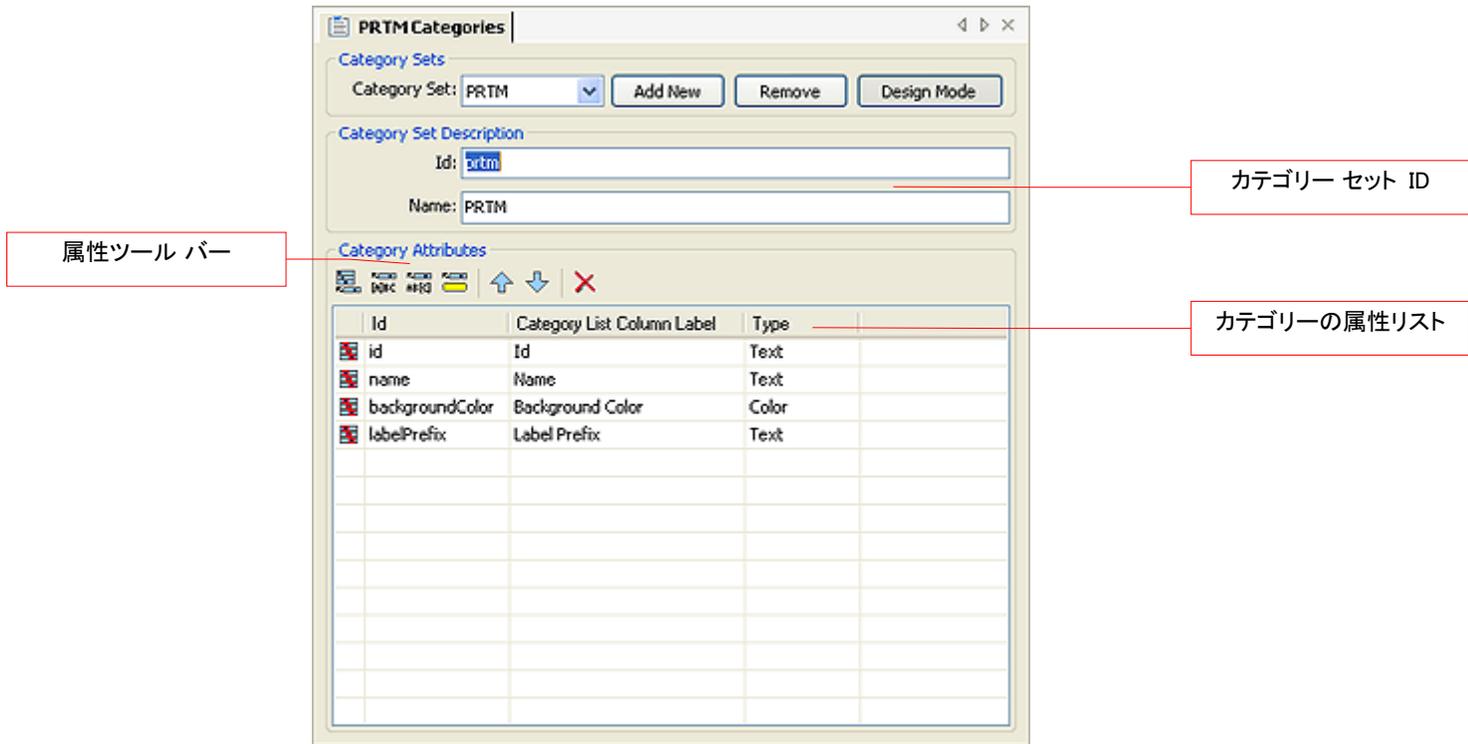
## カテゴリ リスト モード

「カテゴリ リスト モード」の場合は、(カテゴリ セット セレクトドロップダウンによって) カテゴリ セットを切り替えることができます。また、[新規追加] および [解除] ボタンでカテゴリ セットの追加や削除を実行できます。



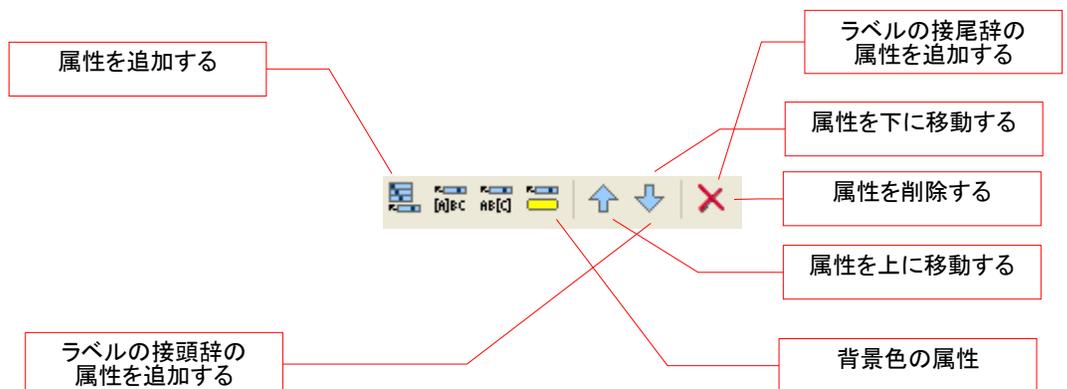
## デザイン モード

デザイン モードの場合は、カテゴリを構成する属性を確認、定義、および変更できます。編集中のカテゴリ セットの名前と ID も変更できます。



## 属性ツール バー

Figure 6. 属性エディタのツール バー



## 新しいカテゴリ セットの作成

最初に、ナビゲータでプロジェクト アイテムを選択する必要があります。カテゴリ ファイルは、ここで選択したプロジェクトに配置されます。プロジェクト アイコンを右クリックして、[新規] > [カテゴリ ファイル] を選択します。

各カテゴリ エディタは、Avantage のメイン編集エリアの固有のタブつきビューに表示されます。これにより、複数のカテゴリ セットを同時に編集できます。

新たに作成されたカテゴリ セットは、プロジェクト ワークスペースに自動的に追加され、エディタ ウィンドウ開いた状態で表示されます。

Figure 7. 新しい (未保存) カテゴリ ファイル

新しい空のカテゴリ ファイルを作成するには、ナビゲータのプロジェクト アイコンを右クリックし、[新規] > [カテゴリ ファイル] を選択します。



初期のカテゴリ ファイルは空なので、新しいカテゴリ セットを追加するまで、エディタ ウィンドウには何も表示されません。

[新規追加] をクリックします。カテゴリ セットを作成すると、エディタに作成内容が表示されます。

新しく作成されたカテゴリ は、デフォルト名の「Category Set」が割り当てられ、選択された状態でエディタに表示されます。

新しく作成されたカテゴリ セットには、(付属の)「Id」と「Name」の属性定義のみが含まれています。この 2 つ以外は空の状態です。このカテゴリ セットを使えるものにするには、属性を追加定義する必要があります。



カテゴリは、さまざまな属性から構成されます。デフォルトでは、カテゴリには ID と名前のみが含まれています。

属性タイプには、テキスト、No.、チェックボックス、色があります。各属性には、ID、表示ラベルの列、および値があります。

## 属性の編集

デザイン モードを有効にすると、カテゴリ セットの [ID] と [名前] が表示されます。カテゴリ セット ファイルの用途を反映させるため、できるだけこの時点で [ID] と [名前] の内容を変更してください。

Figure 9. デザイン モードで新しく作成されたカテゴリ セット

ID	Category List Column Label	Type
id	Id	テキスト
name	Name	テキスト

## 属性の追加

この操作により、新しい属性が追加されます。属性には、Id、デフォルトの名前/タイプが自動的に割り当てられます。この時点で「Id」と「Name」を変更して属性の用途を反映するようにします。デフォルトの属性は [テキスト] ですが、「Type」項目をダブルクリックして変更できます。ドロップダウン リストを開き、[テキスト]、[チェック ボックス]、[No.]、[色] から選択できます。

Figure 10. 属性タイプの変更

attributeId	Attribute	テキスト
attributeId	Attribute	テキスト

## ラベルの接頭辞の属性を追加

このボタンにより、「デコレータ」によって使用されるラベル接頭辞を定義するテキスト属性を追加します。

カテゴリがプロセス モデルの BPMN オブジェクトに適用されている場合、この属性の Id は、ラベル デコレータによって使用されているので、変更しないでください。

## ラベルの接尾辞の属性を追加

このボタンにより、「デコレータ」によって使用されるラベル接尾辞を定義するテキスト属性を追加します。

カテゴリがプロセス モデルの BPMN オブジェクトに適用されている場合、この属性の Id は、ラベル デコレータによって使用されているので、変更しないでください。

## 背景色の属性を追加

このボタンにより、背景色を定義する属性を追加します。背景色は、この属性を使用するカテゴリを持つ BPMN オブジェクトとラベルを装飾するために使用されます。

背景色はあらかじめ定義された属性です。背景色の Id は変更しないでください。この「Id」の値は必ず「backgroundcolor」、「Type」の値は「色」でなければなりません。

注:1 つのカテゴリ  
セットに定義する  
背景色は 1 つにし  
てください。

## 簡単な例題

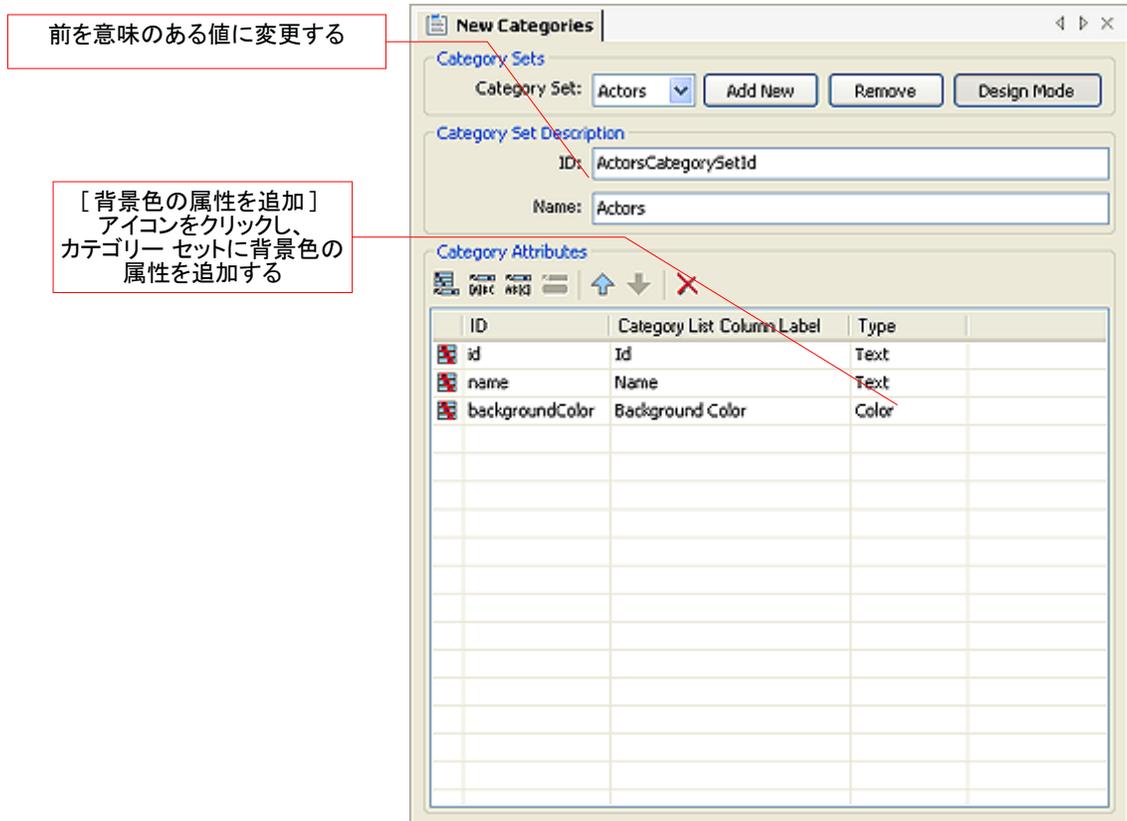
例題として、3つのカテゴリを定義する簡単なカテゴリ セットを作成してみましょう。これらのカテゴリにより、プロセス モデルで3色の背景色が表示されるようにします。

3つのカテゴリには、デフォルトで白の背景色が設定されています。名前を「Management」、「Worker」、「System」に変更し、それぞれに赤、青、白の背景色を設定します。

このカテゴリ セットを「Actors」という名前にします。

## 属性の追加

Figure 11. 背景色を追加して、セットの名前を変更した後



背景色属性の Id「backgroundColor」は、デコレータが使用するシステム Id なので、変更しないでください。

背景色属性が定義できたら、[デザイン モード] ボタンをクリックしてデザイン モードを終了します。

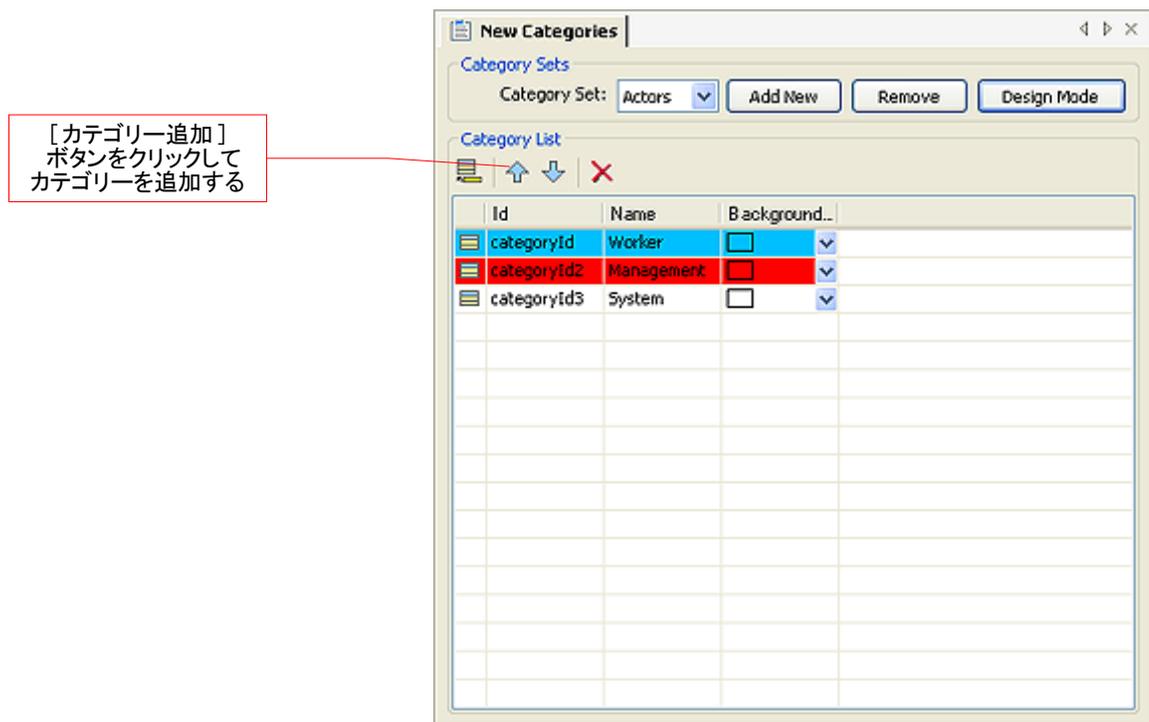
## カテゴリの追加

エディタはカテゴリ リスト モードに戻り、新しい 3 つのカテゴリを追加できる状態になります。[カテゴリ追加] アイコンをクリックして、3 つの新しいカテゴリを追加します。

リストに「Background Color」カラムが表示されます。先ほど backgroundColor 属性を追加したので、リストにこのカラムが追加されています。

各カテゴリで、「Name」セルをダブルクリックして名前 (Worker、Management、および System) を入力します。続いて、背景色のドロップダウンで、Worker に青、Management に赤、System に白 (デフォルト) を割り当てます。

Figure 12. カテゴリの追加と色の設定



ここで、カテゴリ セットを必ず保存してください。Ctrl + S キーを押す ([ファイル] > [保存]) か、ペーンを閉じる際のプロンプトで [はい] (保存する) を選択します。

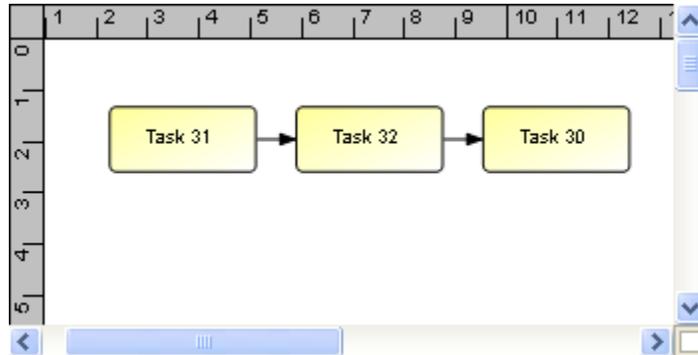
次のステップでは、これらのカテゴリをプロセス ダイアグラムで実際に使用します。

## プロジェクトのデフォルト カテゴリ セット ファイルとして カテゴリ セット ファイルを指定する

ナビゲータ でカテゴリ ファイルを右クリックし、[デフォルトのカテゴリ ファイルとして設定] を選択します。

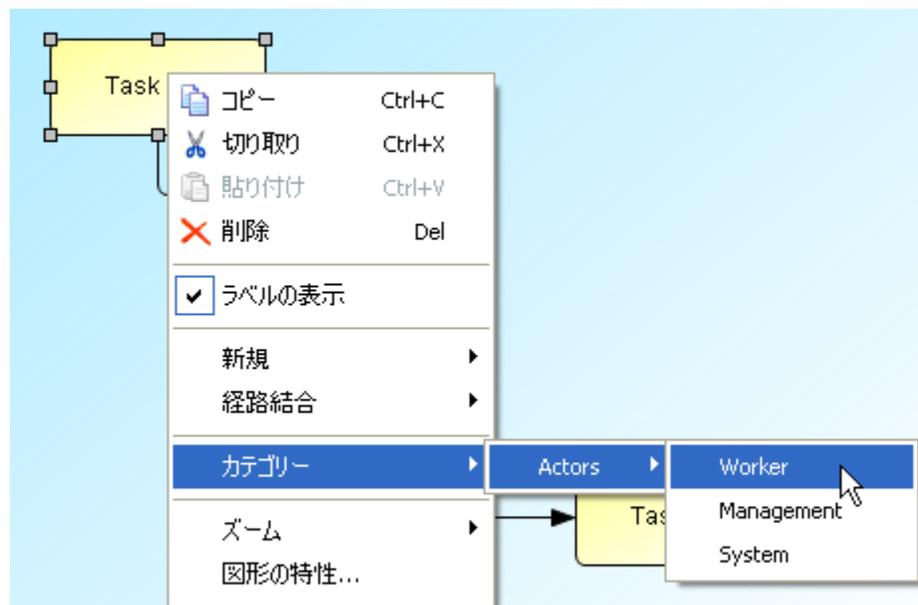
## プロセス エンティティへのカテゴリの割り当て ダイアグラムを作成し、3つのタスクオブジェクトを追加します。

**Figure 13.** 3つの図形を使用してプロジェクトにダイアグラムを作成する



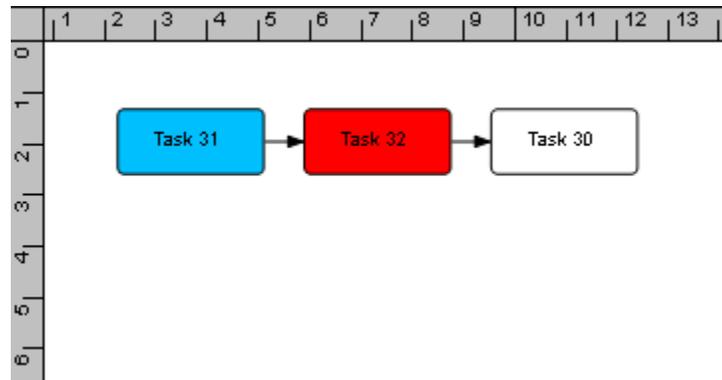
続いて、各図形にカテゴリを割り当てます。各タスクを右クリックして、[カテゴリ] > [Actors] を選択し、適用する適切なカテゴリを選択します。

**Figure 14.** [カテゴリ] コンテキストメニューの使用



最終的な操作結果は、下図のようになります。

**Figure 15.** タスクへのカテゴリ割り当て後



図形が、先ほど定義した背景色で装飾されていることがわかります。そのほか、これらのプロセス エンティティを表示する Avantage プラットフォームのいずれのビューでも、このカテゴリに関連する背景色が使用されます。

**Figure 16.** カテゴリによって装飾されたナビゲータ



